

令和6年度 第1回佐賀市男女共同参画審議会 議事概要

開催日時 令和6年9月10日(火) 10時00分から12時06分まで

開催場所 佐賀市役所庁議室

会議の公開又は非公開の別 一部非公開

出席委員 田口 香津子(会長)、福成 有美(副会長)、内海 恵美子、小城原 直、木下 健一、黒田 彩、古泉 志保、澁谷 健、名和田 陽子、野田 久美、橋本 京介、長谷川 淳一、福田 京子、宮田 紗良、森島 孝(15人)

欠席委員 なし

事務局出席者 木原政策推進部副部長、橋本男女共同参画課長 ほか

傍聴者 1人

議事概要

1 開会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 会長・副会長の選出 互選により会長に田口香津子委員、副会長に福成有美委員が選出された。

5 議題

(1) 令和6年度各種審議会等における女性委員の参画率について(報告)

○事務局

資料(冊子A 3～6ページ)に沿って説明
質疑なし

(2) 第4次佐賀市男女共同参画計画(基本方向I～IV)の進捗状況について(報告)

○事務局

資料(冊子A 7～9ページ)に沿って説明

○委員

男女共同参画推進協賛事業所について、協賛することによる事業所のメリット——そもそもどういう理由で協賛しているのか。また、協賛事業所に対するアプローチはどういうものがあるか。

○事務局

男女共同参画推進協賛事業所には男女共同参画に関する事業の案内をしたり、研修の案内をしたりしており、事業所にとっては無料で参加できる、従業員を無料で参加させられるというメリットがある。

登録のきっかけとしては、経済部で中小企業応援の補助金を出しており、佐賀市男女共同参画推進協賛事業所であることが要件の一つとなっているため、これをきっかけに今年度多くの登録をいただいた。

(3) 男女共同参画に関する佐賀市職員意識調査結果について(報告)

○事務局

資料(冊子A 10～15ページ)に沿って説明

○委員

委員から、自身の勤務先における男性の育児休業取得促進に関する施策を紹介。

○事務局

男性の育児休業取得促進の施策については、担当部署である人事課に提案していきたい。

○委員

実際に育児休業を取得できなかった人に理由を聞けば、より改善策に結びつくのではないか。

また、取得してどうだったか、これもきちんと把握した上で、やはり迷惑がかかってすごい居心地が悪かったのか、迷惑がかかったがやっぱり取得してかけがえないものが得られたとか、そういったことが分かれば、もっと推進すべきだということを庁内でも発信できるのではないか。

また、実際に女性が育児休業を取るときにどういった対応をしているかを整理した上で、ではなぜそれが男性には当てはまらないのかを把握することで、男性の育児休業が伸びるのでは。

また、育児休業取得期間について、もう少し長く取得するとか、もしくは時短で復帰して育児休業をとらずとも時短という働き方っていうことを知っていただけると、ゼロか100かではなく、もう少しいいあんばいの休み方っていうのも出来たりするのでは。

○事務局

育休を取得してどうだったかということについて、庁内のネットワークに取得した職員の感想などを掲載しているものの、なかなか閲覧されてないという現実も一方ではあり、男女共同参画課からもそういった事例の発信などをしていきたい。

また、取得しなかった人については、給料が出なくなる部分が前面に出てきていて、それがゆえに絶対取得しなさいとも言いきにくいという側面もある。現実的には、最初の1年間は給料の8割ほどの手当金が支給されるので、そこの発信もしたい。

○委員

男性と女性とどう違うのかというところの分析に当たり、実際その労務の中身に入ると、行政だったら行政ならではの、ものづくり分野だったらものづくり分野ならではの課題が出てくる。

問17については、性別で結果が逆転しているような結果になっていることが見える。つまり、男女間で認識が合致していない部分が全体的な職場の風土につながると思う。

実際この男女共同という内容は、男性が社会中心に生活していたものから育児とか家庭に入り、女性が社会進出するというような部分もあるので、ワーク・ライフ・バランスの数値をなるべく5:5に、最近はワーク・ライフ・ミックスという言葉も出始めているので、実際、家庭と仕事のバランスを性別で阻害しているものというものを排除していけば、もっといいものになるのでは。

○事務局

育児休業取得にあたっては、課長がヒアリングをして、実際どういった仕事をその他当該職員がしているのかというのを分析して、ほかの職員に割り振り、その職場がまわるようにあらかじめ手配をしている。

○委員

父親が育児休暇の制度を取得していて、家の中にはおばあちゃんがいる、家族でサポートができるという状況ならよいが、父親の育休が終わった後の期間に子どもが病気したときに1番サポートが要る時期。また、いやいや期など赤ちゃんが泣き出したりするときに誰かいてほしいというシチュエーションがある。そういったときの育児休暇も何か必要かなと思う。

○委員

この調査は市の正規職員のみが対象とのことだが、母子家庭の方が任期1年間等の非正規に結構いらっしやと思う。この結果も正規、非正規で大分変わってくるところもあると思う。今後可能であればそういったところに対象を広めた調査をしていただければ。

○事務局

非正規職員の部分についても、何かやれることがないか、意見を聞くような仕組みを考えてみたい。

○委員

佐賀市男性職員の育児休業取得期間別の人数が記載されているが、育休を取った職員の役職はどうなっているか。

○事務局

役職まで整理はしていないが、主任や主事、1番上では係長といったレベルになるかと思う。

○委員

私の職場の例で言うと、役職の高い人が取得した実例があると、現場としてはすごく取得しやすい。また、フレックスタイムや時短勤務を推奨しており、家庭の事情や母子家庭など、いろんなステータスがあると思うので、そういった働き方の多様性もつくっていければよいのでは。

○事務局

佐賀市役所の年齢構成からいうと、育児休業を取る世代は主事、主任クラスであり、役職者の育休取得のケースは少ないとは思いますが、そういった事例があればインタビューができればと思う。

(4) 男女共同参画に関する市民意識調査（案）及び中学2年生意識調査（案）について

○事務局

資料（D-1、D-2、D-3、E-1、E-2、E-3）に沿って説明

○委員

質問の量が多すぎて回答率が下がる懸念がある。ランダムで無作為の調査なので、小分けにすることも考えられる。これだけツールが発展しているので、回収率を上げる工夫が考えられるのでは。

○事務局

今回初めてウェブでの回答を可能としている。前は質問票を送って回答を待つような形だったが、今回は質問票を送り、その後お礼状を兼ねてまだの方はお願いしたいというはがきを送ることにしている。確かに回答に20分から30分ぐらいかかるため、御意見を踏まえて検討したい。

○委員

佐賀市の子育てのしやすさや男女共同参画の進捗などの導入を記載すればもう少しアンケートに協力したい人が増えるのではないかと思う。

○事務局

検討したい。

○委員

調査結果を踏まえて、各所管にフィードバックして対策を立案するのか。それとも、これはあくまで男女共同参画に関する部分だから、例えば性別ごとのいわゆる、ジェンダーギャップを埋めていこうというということで、男女共同参画課を中心に施策を行っていくのか。

○事務局

男女共同参画計画を策定する予定になっている。これが佐賀市の全課に関わってくるので、男女共同参画課だけではなく、この調査を踏まえて、どういうことをするとジェンダーギャップが埋まるか、学校の子どもたちに伝わるか、全課と一緒に今後計画を見直すための資料とさせていただく。計画は全庁的なバイブル的なものになっているので、ひいては全庁に波及していくような使い方をしていく。

○委員

こういった調査をいろいろな機関でやられていると思う。従来はベースが家庭生活と職場での意識的な部分と実態的な部分の調査をされてきた。人権、性的マイノリティー、ここはちょっと考え方が違う部分もある。ここはジェンダーギャップをなくそうとか、性別に対してこういった被害を出させないような施策をとるものにもなる。

調査する段階で、調査を受ける側がどういう認識で回答すればよいかを伝えられれば、回答率にも多少影響するのでは。

○事務局

将来どのような仕事をしたいかという質問に、ふりがなをつけている。

中学2年生といっても、結構外国にルーツをもつ生徒もいるし、漢字を読める生徒も読めない生徒がいるということで、この部分だけふりがなをつけている。

○委員

漢字が苦手とか、外国にルーツを持つ生徒もいるので、少し配慮が必要。

1人1台端末になっていて、ほとんどの中学生がパソコンを使えるが、少し分量が多い感じがする。

ジェンダーの部分で、女性、男性、その他（ ）とあるが、この選択に悩む生徒がきついていると思う。書くべきか、書かないべきか、分からないとか、答えたくないという生徒ももしかしたらいるのではないかと思う。

○委員

これは学校で回答させるのか、持って帰って家で回答させるのか。

○事務局

学校における回答となる。

○委員

問9において、私たちの世代は、子どもに家事をさせているような感覚はなくお手伝いという認識だった。お手伝いと家事は違うと思うが。

○事務局

お手伝いと認識している生徒もいるだろうし、実際に自分が中心に家事をしている生徒もいると思ったので、手伝いではなく家事というふうな言葉にさせてもらっている、この審議会で議論いただければと思う。

○委員

前回も同じ質問をしているのか。

○事務局

前回も家事という言葉で質問している。

○委員

家事と書けば、自分なりに責任をもって喜んですと思う。家事と書いてあり、良いことだと思った。

○委員

4 ページの問9を見たときに、ヤングケアラーを意識してされた設問と感じた。8 ページにいろんな相談先を記載されているのを見て私はほっとした。さっきの市民調査のほうでも、このアンケート自体が周知の場にもなるという意味合いで書いていただいているので電話番号まで書いていただきたい。

○委員

調査という側面と、いろんな情報を伝えるという側面もあるので、生徒たちに届く範囲で、伝えられるものはお願いしたい。

○委員

家事か手伝いかについてはどうだろうか。質問項目を増やすわけにもいかないし、曖昧に広げるほうがいいのか家事や手伝いにするのか。

○委員

ヤングケアラーで引っかかるところがあり、そっちのほうも何か分かったほうがよいと思う。家族の家事分担ということも理解できるし、一概に言えない。

○委員

問9の表記は、受け手にイメージを委ねてもいいと思う。例えば、下記の家の役割をどのぐらい行っていますかとか。家事でも手伝いでも、とり方が人によって違うと思うので、このアンケートを答える中2の生徒に委ねてもいいかなと思えば、あえてぼやっとした表記でよいと思う。

○委員

家事という言葉でなくても、家の事とか、役割、見る事などが考えられるが前回は家事で調査しているので、前回との比較も必要なので、前回と同じように家事という言葉で状況を見ることもできるがいかがか。

○委員

アンケートをとるということは、意図があると思う。何を聞きたくて、どう問いをたてるかということ考えたときに、佐賀市がこの家事をどのくらい行っていますかという問いを立てられたのは、ヤングケアラーの掘り起こしなのか、さっきおっしゃってくださった役割をどれぐらい担っているのかということ把握したいのか、そこはどうなのか。

あと、前回の意識調査の際に、LGBTQの話で、実際、佐賀市の中学2年生の中でどれぐらいの割合で自分の性に対しての自認があるのかの結果を見たときに、私たち大人側が衝撃を受けて、だったらやらなきゃいけないことがいっぱいあるよねっていうことがこの審議会の中でも出たと思うので、何を聞きたいのかによって言葉が変わってくるのかなと感じる。

○事務局

一番聞きたいのは、男性、女性でジェンダーギャップがどれくらいあるかっていうこと。通常生活していて、男だから女だからというところ、その結果を踏まえて、今後、学校でどう活用してもらおうかというところを聞きたい。

ヤングケアラーについては、これぐらいいたということ把握して担当課に伝えたい。

性自認に関して、前回アンケートで0.6%、9人がその他を選んでおり、そのときの自由記述には自分が女だと思ったことはないとか、中身は男とか、時には女、時には男とか、男性に憧れるとか、心は男性とか、私に性別があるわけないとか、クエスチョニングをつけた生徒もいたし、見た目は女性だけど心は男性ですという答えをもらっており、そういう生徒が0.6%いた。

こちらの調査について、表紙の3番に、回答は全て任意、答えられる質問にお答えできれば結構ですと入れさせてもらっており、ここも、その他（ ）と書いておられますが、回答しないというのもできる仕組みにしており、分からない、回答したくないと入れるのか、分からない（ ）として、回答しないことを生徒に選ばせるのかは考えないといけない。

○委員

目的が、男女共同参画に関することだったり、ヤングケアラー、マイノリティーの方の拾い上げということだが、そこをきっちり説明するのは先生方のさじ加減で全然違ってくると思う。

アンケートの目的に関して、文章だとなかなか全部読んで全部理解するのは難しいので、簡単な導入があったほうが正確に意図が伝わるので、動画を準備するのも一案ではないか。

○事務局

中学2年生に調査を取り始めたという経緯については、中学1年生を対象に、男女共同参画とか、ジェンダーとか、らしさって何だろうとか、男女平等になっているのとか、また性自認についても、授業を中1ですてもらい、中2で調査するとい仕掛けになおり、このパンフレットのつくり方にも生かしていきたい。

○委員

話が戻るが、将来の職業のところだけふりがながついている。外国籍の生徒のことを考えると、全てにふりがながあったほうがいいのかと思う。ウェブでどう見えるのかわからないが、イラストを入れてみたり、やわらかい雰囲気を出したりすること必要かと思う。

○事務局

ウェブでの調査のため、ルビが打てず括弧書きとなるため、全部にフリガナをつけると読みにくくなる懸念はある。

○委員

ネットの機能だからこそ何か全てを平仮名化できるみたいなものっていうのはできないのか。

学校のシステムの中で、外国にルーツを持っている生徒たちが、ふだん授業で使っているものもあるので、全部ひらがなに、やさしい日本語にするような機能があるのではないか。

○委員

1番簡単なのは、全てひらがなのバージョンと通常のバージョンを作り、漢字が苦手な生徒はこちらのQRコードを読み込んで回答する方法がよいかと思う。

○委員

読み上げ機能みたいなものはないのか。

○委員

読み上げ機能はついているが、例えばワードとかの文書については読み上げるが、フォームやアンケート機能には読み上げ機能は使えなかったと思う。

ひらがなバージョンを作って、そっちを読むようにと指示をしたほうが早いと思う。

○事務局

ウェブの画面を両バージョンつくるのは難しい。

教育委員会に確認して、なるべく外国ルーツの生徒が読むことができるようにということを一度調査させてもらいたい。

○委員

御検討していただくということで、多様な人が回答しやすいようにとの意見を頂いたので、限られた時間になるが、よりよい方向に検討していただければと思う。

○委員

量がやはり多過ぎる。回答しやすい設問数であること、ツールが様々であること、QRコードなどを読み込んで回答できるようなシステムであれば、今はスマホでいろんなものを解決するという世代がシェアを占めていますので、ぜひペーパーではなくてそういう手段でも回答できるように思う。

回答結果について、中小企業の経営者の皆さんは、原材料高騰であったり人材不足で今非常に厳しい状態で、さっきの育児休業に戻るが1人欠けるだけでもいろんな業務が止まってしまう。人を休ませたくない雰囲気が出るので、この市民意識調査もしくは中学生の意識調査を、必ず、中小企業の経営者の方にフィードバックしてほしい。

女性の活躍推進というが、経営者は休めと言っても直接の上司は困ったなとなる。佐賀に一番多い中小企業の経営者の方々に、調査結果をぜひ結果を届けてほしい。

○事務局

市民意識調査は紙で配るが、回答についてはウェブでもできるように準備をする。

フィードバックについては、担当の部とも話はしたいが、当課でできる部分としては協賛事業所にお知らせをしたり、労政だよりにリンク先を掲載するなどでお知らせをしたい。

○会長

市民意識調査、中学2年生意識調査につきましては、あとは事務局一任で、何か必要があれば、私や副会長と意見交換しながら進めさせていただきたい。

(5) その他

○事務局

現在の第4次佐賀市男女共同参画計画の計画期間が令和3年度から7年度までとなっており、次の第5次佐賀市男女共同計画の策定を、皆様をお願いをしたいと考えている。

この計画の策定の基礎資料として先ほどの市民意識調査や中学2年生調査の結果をもとに検討をお願いすることになるが、具体的な進め方については改めてお示ししたい。

(6) 第4次佐賀市男女共同参画計画（基本方向V）の進捗状況について（報告）

DVの対応に関する内容が含まれており、被害者の方の生命、身体の保護に支障を及ぼす恐れがあるため、これ以降の審議について非公開とすることが承認され、傍聴者退出の上、審議した。

6 閉会

事務局から委員に対し、真摯に意見や議論をいただいたことに謝意を述べ、会を閉じた。